

令和4年度第3期アーバンデザインセミナー第2回実績報告書

1. 開催日時

令和5年2月18日（土）14時00分～15時30分

参加人数: 21名（UDCBKでの参加: 11名、オンライン: 3名）

開催場所: UDCBK オープンスペース

※オンラインでのアーカイブ配信の視聴回数は、4回

2. テーマおよび話題提供者

「子どもたちが結ぶ『にぎやかでレジリエントなまち』づくり」

- 今年度のセミナーのテーマである「大学のあるまち・学生の住むまち」について、第3期では、草津市が掲げる「健幸都市」の観点も交え、「健やかなまち」を展望する。
- 本セミナーは、「地域の絆」に焦点を当てて、子どもや大学生、保護者など、若い世代を媒体とした「レジリエントな（強靱な）地域づくり」について考え、子どもや若い世代の「活力」を活かした組織のユニークな考え方と事例について、龍谷大学 社会学部 教授の高田 満彦氏に講演をいただいた。



3. 話題の概要

高田氏による講演

(1) はじめに: 「健幸都市」構想について

- 健幸とは皆が求めている幸福であり、自分たちの住むところがよくなければ幸福にはならない。
- 「人と人の絆」に当たる「社会関係資本」に焦点を当てて、「にぎやかでレジリエントな（強靱な）まち」を目指す試みを紹介する。

(2) コミュニティとは

- 地域性や共同性を有し、社会的相互作用が存在する人々の集まりをコミュニティと呼ぶ（『現代社会学辞典』（2012年））。
- かつての「まち」「むら」では、お互いが助け合って生きてきた。また恩恵も存在した。
- 現在の「まち」のコミュニティ、例えば町内会に、具体的な恩恵は特にないので敬遠される（町内会に入っていないだけでもごみは捨てられる）。

(3) コミュニティの歴史

- 「むら」の自治は近代において統治の仕組みに組み込まれた。しかし、現代においてコミュニティの運営は住民自治という名のもとに行政からは見放されている。

(4) 「レジリエントなまち」とは

ー近年浮彫りになってきたコミュニティの問題／直面するコミュニティの課題ー

- コミュニティの自治を担う自治会・町内会は住民・会員の減少により、社会関係資本（祭り、伝統行事）や、防犯・防災機能の維持が難しくなっている。
- 米国では、‘Neighbors Helping Neighbors’ の考え方に基づいて、日本では当たり前のコミュニティの運営の仕方にまで言及したガイドブックができています。これはコミュニティの脆弱性の現れと言える。
- 年次的な住宅が集まる年齢層縦長型のコミュニティは、特定の年齢層が集中した建設時期集中型のコミュニティに比べて脆弱度は緩やかになる。

(5) 一緒に考えましょう、コミュニティ運営の「コツ」

ー発想の転換が必要なコミュニティの運営ー

- 「あっちかこっちか」のどちらかしかしないというように極端な運営に走るのではなく、色々な工夫を組み合わせる。
- 役員を決めるときには選挙や輪番の長所を積極的に活用する。
- ゆるいまちづくりが大事。何事もきっちりしすぎない。
- たまには「飲み会・食事会」を町内の人と地域のお店で一緒に行い、親睦を深める。

- よそのコミュニティの前向き、建設的な事例も参考にする。

(6) コミュニティの底力

ア. 防災の観点から

- 阪神・淡路大震災、東日本大震災において、復興がはやかったまちは町内会がしっかりとレジリエントなコミュニティとして機能していた（例：神戸市長田町商店街）。

イ. 「町内会会員になりたくありません」でも地域の防災訓練には参加多数

- いざというときに、地域の力は必要という認識は多くの住民が共有している。

(7) エイブラハム林間学校の試み

- 夏休みの2日間、地域の子どもたちを神社に集めて、ラジオ体操や勉強、昔ながらの遊びをする。
- 子どもたちはやっぱり地域で遊びたい。
- 親は実は協力的（昼食づくり、差し入れなど）。
- ラジオ体操に地域の色々な大人が集まってくる（民生委員、校長先生など）。
- 龍谷大学社会学部のゼミ生も活動に協力している。大学に来ているキッチンカーにも出動してもらった。

(8) エイブラハム林間学校から得られた新たな発見

- 親は子どもの活動に興味津々。
- 親は子どものためなら労を惜しまない。
- 親は親同士のつながりを求めている。
- 若い親は、自分の子ども中心なだけであり、社会に無関心なのではない。見方、考え方を少し変えることで、コミュニティの運営にも参画してくれる。

(9) 「子どもの活動のお金がない!」「いや、お金で町内を回したろ!」－左義長の取組－

- 地域の伝統行事である左義長が廃止となったことを契機に、子ども会有志や林間学校OBの協力のもと、地域のお札・しめ縄の回収を行う。
- 地域の人々にいただいたお志を林間学校の運営費として活用する。このことにより、親子の地域社会の理解、お金の地域循環を達成できた。

(10) 終わりに

－地域運営の工夫「子どもたちが結ぶ『にぎやかでレジリエントなまち』づくり」－

- 転入者があつたら、必ず声をかける。そして、メリットを話す（子ども会のことや地域を知ることができるなど）。

- 子ども会とのコラボレーションで若い世代の活力を活かす。
- 発想次第で、たった一人の「常任役員」でも 地域の運営はできる。

4. アンケートまとめ

当日参加者、アーカイブ視聴者を含め、アンケートに回答いただいた方は 10 名だった。

問 1. 参加者属性

(1) 年代

10代～20代	30代～40代	50代～60代	70代以上
0	1	5	4

(2) お住まい

草津市内に 居住	草津市内に 通勤・通学	県内他市に 居住	滋賀県外に 居住
10	0	0	0

(3) 職業

学生	大学関係者	会社員等	その他
0	0	4	6

(4) 開催を知った手段（複数回答）

チラシ	ホームページ	SNS	メールニュース	広報誌	知人	その他
2	1	1	1	2	5	1

問 2. 今回、印象に残った点、講師の方へのメッセージなど

- とても参考になりました。ありがとうございます。地域の力を活性化させるために子どもを主体に中心に考えることがとても大切に思えました。でも、地域の人が大勢あつまって花火をしたりする場所がなかったら公民館しかなかったら。何ができるのか、新しいやり方を考えないと感じました。
- 大変興味深いお話をありがとうございました。
- 現代の町内会事情が分かりやすい。
- それだけするのだったら色々難しいところもあると思いますが、子どもと高齢者など、たてよこのつながりができるコラボという発想がいいですね。いかに頭を柔らかくですね。と同時に身体柔らかく・・・
- エイブラハム林間学校、皆が受け入れられる「しかけ」が必要だと思いました。

- レジリエントなまちづくりには、ゆるい（ルーズな）まちづくりを・・・という点、とても大切だと思いました。どれか（何か）一方に決めるのではなく、良い所を組み合わせてやっていく。これが実現できれば、よりレジリエントなまちづくりが形成されると実感しました。
- とても素晴らしいセミナーでした。町内会で参考になる事項がたくさんあったと思います。
- 日本古来のコミュニティーの風習を巧みに取り入れ各種工夫をして有意義な活動をおられる様子。参考にさせていただきます。
- 内容がおもしろかったです。うちは上の孫が大学生、下が小学生。ぜひ小学生の孫の友達を集めてカレー作りをうちでしたいです。

問3. 今後のテーマや概要等についての要望

- テーマ良かったです。もっと周りの人とお話ししたかったです。
- 2時間以内が良い。防災、心理学
- より広く多くの人に聞いてもらえたらもっと町が活性化されるのかなと思います。
- 高齢者を自宅の外に出ていただくアイデアがありましたら教えて下さい。
- 時間等はちょうどいいと思います。